3章　中国史Ⅲ

問題

【1】

解答

a　12　　b　07　　c　15　　d　21　　e　38　　f　24　　g　29　　h　19
i　22　　(ア)　32　　(イ)　03

解説

明の興隆期および当時の周辺諸国に関する問題。周辺諸国の王朝は，中国王朝との関係から整理してみるとよい。

a　ここに当てはまるのは，永楽帝の北京遷都以前の都である南京である。
b　靖難の役（1399 ～ 1402）を経て永楽帝が即位した年代（1402）を覚えておこう。
c　難問。明代，女真（女直）族には建州・海西・野人の 3 部族があったが，そのうち建州部が明の永楽帝の招撫を受け，建州衛が設立された。やがてこの建州女真の中からヌルハチが現れ，後金（のちの清）を築くことになる。
d　高麗に次ぐ朝鮮の統一王朝である朝鮮王朝（李氏朝鮮）の開祖，李成桂（太祖；位 1392 ～ 98）を選べばよい。
e　足利義満と明朝との間の正式な日明貿易は勘合府を用いる勘合貿易である。20 の朱印状と間違えないこと。こちらは近世日本の為政者が海外渡航許可証として発給したものである。
f　ヴェトナムの陳朝は明に朝貢して安南王に封じられたが，14 世紀末の内紛に乗じて永楽帝が 1414 年にヴェトナムを平定し，これを中国本土に編入した。これに対し，1418 年黎利が反乱を起こし，手を焼いた明軍は 1427 年に引き上げ，翌 28 年に黎利が黎朝を開いた。
g・h　オイラト部のエセン＝ハンと土木の変（1449）はセットで覚えること。
i　難問。王直（？～ 1557）は安徽省の出身で，日本・フィリピン・ヴェトナム・タイとの密貿易で活躍した。明朝の海禁政策強化後は，日本の平戸や五島列島を根拠地とし，日中の海賊を率いて中国沿岸を略奪した。
(ア)　アルタイ山脈の西はオイラト部が，東はタタール部がそれぞれ勢力圏としていた。
(イ)　基本問題。訓民正音を勅命により作成させたのは，李氏朝鮮第 4 代国王の世宗である。

【2】

解答

問 1　A　士大夫　　B　（李朝）大越　　C　草市　　D　交子
E　靖難の役（靖難の変）　　F　染付
問 2　b　　問 3　b　　問 4　b　　問 5　e　　問 6　d　　問 7　c　　問 8　c
問 9　b　　問 10　c　　問 11　e　　問 12　a　　問 13　d

解説

宋～明に関する政治・経済・文化に関する基本的問題。空欄Ｆで赤絵か染付か悩むであろう。問６も難問であるがともに選択肢は絞れるはず。どちらかを正解できれば合格率はさらに高まるだろう。

問１　Ａ　唐末～宋は中国社会の大きな変革の時期であった。中国の支配階級を形成してきた貴族（門閥貴族）が荘園を節度使（藩鎮）に奪われて没落し，節度使（藩鎮）も北宋の文治主義下で没落。入れ替わるように新興地主階級として台頭したのが形勢戸（官戸）だった。

Ｂ　ヴェトナム北部は中国の支配下にあったが，唐の滅亡，五代十国の混乱，北宋の文治主義を背景に独立傾向を強め，李公蘊の建国以降，李朝・陳朝・黎朝・西山朝と続く大越国になる。

Ｃ　唐は商業を管理しようとして都市の城郭内に商業地域である市を設置したが，商人たちは自由な経済活動を求め，都市の城壁外で，非公認の定期市である草市を開設した。

Ｄ　四川の成都の民間金融業者の手形から出発し，北宋政府が発行権を取り上げたのが世界最初の紙幣である交子。

Ｅ　建文帝（恵宗；位 1398 ～ 1402）は側近の建議を受け入れ諸王の勢力を排除する政策を採用した。その結果，叔父に当たる北京の燕王朱棣が奸臣打倒（“君側の奸を除き，帝室の難を靖んず”）の名目で挙兵し帝位を簒奪したのが靖難の役（1399 ～ 1402）である。この際に宮廷内の宦官から協力を得たため，明ではとくに宦官が重用された。

Ｆ　赤絵か染付で悩むところ。用語集を読み込んでいる生徒は強い。染付は宋末から元に始まり，藍色で模様を描き焼き付ける手法。赤絵は白磁に５色の釉薬で模様を描き，特殊な窯で焼く技法をさし，明代にとくに発達した。これまで赤絵・染付を曖昧にしてきた人も，この問題を契機に区別できるようにしよう。

問２　常識。五代は後梁・後唐・後晋・後漢・後周の順。最後の王朝というヒントがあるから間違えるわけにはいかない。後周の世宗は五代随一の名君といわれ，廃仏を断行して財政を確立し，十国の後蜀・南唐を討ち，遼から燕雲十六州の一部を奪回し，禁軍（皇帝の近衛兵）の改革を行った。彼の改革は北宋の建国者である趙匡胤にも影響を与えた。

問３　唐代の科挙は秀才（時事問題）・明経（五経）・進士（文学）などであったが，北宋の中期に秀才・明経を併せて進士科に一本化され，詩賦に経義・策論が加えられた。

問４　このような設問についてモンゴルと答えるのか契丹と答えるのかとよく質問されるが，この設問にも両方が選択肢となっている。このような場合，詳しいほうを答えるべきである。モンゴル系契丹（キタイ）族が耶律阿保機（太祖；位 916 ～ 26）によって統一され，建国したのが遼。916 年建国時は契丹，47 年に国号を遼，983 年から 1066 年まで再び契丹と改称した。耶律阿保機は 926 年に渤海を滅ぼすが，帰途病没した。つまり燕雲十六州を獲得した 936 年は耶律阿保機ではなく，太宗（耶律堯骨；位 926 ～ 47）の治世。

問５　別の異民族国家とは西夏であるから，滅ぼしたのはチンギス＝ハン。

問６　該当する品物は茶である。なお，澶淵の盟（1004），慶暦の和約（1044），紹興の和議（宋金和約；1142）については次にまとめておく。

①澶淵の盟

遼の聖宗と北宋の真宗の間で，真宗を兄，聖宗を弟として成立。

北宋から遼に銀 10 万両・絹 20 万匹（歳幣）が贈られた。

※歳幣…贈り手が兄弟関係を結んだ相手に与える，毎年贈る金品

②慶暦の和約

西夏の景帝と北宋の仁宗の間で，景帝は仁宗へ臣下の礼をとり成立。

北宋は西夏に銀５万両・絹 13 万匹・茶２万斤（歳賜）を贈った。

※歳賜…贈り手（主君）が臣下に与える，毎年贈る金品

③紹興の和議

南宋が金に臣下の礼をとり成立。

南宋は金に銀・絹（歳貢）を金に贈った。

※歳貢…贈り手（臣下）が主君に毎年貢ぐ金品

問７　基本問題。洪武帝（太祖・朱元璋；位 1368 ～ 98）は中書省（宰相制）を廃止し，六部を直轄化したが，すぐに殿閣大学士を設置して行政を担当させた。殿閣大学士は永楽帝のときに内閣大学士と改称される。

問８　基本問題。義和団事件（1900 ～ 01）での敗北，日露戦争（1904 ～ 05）での日本の勝利を見て清末の改革（光緒新政）が行われた。改革はその他に憲法大綱の発表と国会開設公約（1908）・諮議局（地方議会）開設（1909）・軍機処の廃止（1911）などが行われた。

問９　「15 世紀の半ば」とあるから北虜南倭の１つである土木の変（1449）。オイラト（西モンゴル）がエセン＝ハン（？～ 1454）の下で強大化し，明の正統帝（英宗；位 1435 ～ 49）を北京近郊の土木堡で捕虜とした。以後，明は長城の修復に力を入れ，モンゴルへの積極的な外征を行おうとはしなかった。

問10　ｄの『四書集注』が朱熹の最も代表的著書であるが，大義名分論を論じ，朝鮮・日本に影響したのは『資治通鑑綱目』である。司馬光の『資治通鑑』（編年体）を大義名分の考えで編纂した。

問11　陸九淵（陸象山）は朱熹の友人であったが，朱熹の知識重視（主知主義）を批判して主観主義的立場を採った。陸九淵の立場は，明代に王陽明（王守仁）に受け継がれ，陽明学（明学）が大成された。王陽明の言行録は『伝習録』。

問12　万暦帝（神宗；位 1572 ～ 1620）の宰相張居正は，メキシコ銀・日本銀の流入を背景に，両税法に代わる新税制として，地税（土地税）・丁税（人頭税）を一括して銀で納入する一条鞭法を実施・普及させた。

問13　徐光啓が著した農政の総合書は『農政全書』。徐光啓の考えはイエズス会の宣教師を通してヨーロッパにも紹介された。なお，ｂの『斉民要術』は北魏の賈思勰が華北の農業技術を中心に，食品加工，植物の解説も盛り込んだ書であることも確認しておくこと。

【3】

解答

設問１　１　中書省　　２　六部　　３　朱子学　　４　モンゴル　　５　カリカット
６　羅針盤　　７　燕　　８　正統　　９　オイラト　　10　土木の変
設問２　朝貢貿易　　設問３　泉州　　設問４　靖難の役　　設問５　足利義満
設問６　景徳鎮　　設問７　元　　設問８　魏忠賢　　設問９　山海関

解説

明と鄭和に関する問題。問５は中学の歴史の教養でクリアしよう。問８は単語は知っていてほしいところだが，記述となると厳しい。また，資料集（地図）で15世紀の世界を必ず確認し，どの地域にどんな国（王朝）があったかを確かめておくこと。以下にいくつかの国を例示しておく。

・ジャワ島：マジャパヒト王国（1293 ～ 1520頃）
・スマトラ島：マラッカ王国（14世紀末～ 1511）
・ヴェトナム北部：黎朝（1428 ～ 1527，1532 ～ 1789）
・ヴェトナム南部：チャンパー（２世紀末～ 17世紀）
・タイ：アユタヤ朝（1351 ～ 1767）
・上ビルマ：アヴァ（タイ系；1368 ～ 1555）
・下ビルマ：ペグー（モン族；1287 ～ 1539，1740 ～ 57）
・インド南部：ヴィジャヤナガル王国（1336 ～ 1649）

設問１　１・２　基本問題。洪武帝（太祖・朱元璋；位1368 ～ 98）は皇帝独裁による中央集権政治をめざし，宋以来の行政の最高機関である中書省を廃止し，六部を皇帝の直轄とした。このことは中書省の主な役人である宰相も廃止したことになる。しかし，殿閣大学士を設置し行政を担当させ，その主な役人は宰相となった。

３　朱子学の大義名分は支配者に好ましい。陽明学が広がってもあくまで朱子学が明の官学である。六諭を制定（1397）し，里老人が巡回してこれを唱えたのは，元代に弾圧された儒学精神の復活をはかるためである。（六諭は①父母に孝順なれ，②長上を尊敬せよ，③郷里に和睦せよ，④子孫を教訓せよ，⑤生理に安んぜよ，⑥非為をするなかれ）

４　永楽帝（成祖；位1402 ～ 24）は，もともと燕王朱棣として北平（のちの北京）でモンゴル国境を任されていた。彼は皇帝即位後もモンゴル部族に脅威を感じていたため，モンゴル（ゴビ砂漠以北）に５回親征し，東モンゴルではタタール（韃靼，北元の主力）を，西モンゴルではオイラトをそれぞれ討伐した。

５　鄭和とヴァスコ＝ダ＝ガマに共通する寄港地は東アフリカのマリンディと南インドのカリカット。当時カリカット周辺がヒンドゥー系のヴィジャヤナガル王国（1336 ～ 1649）の領土であったことも確認しておくこと。

６　基本問題。後漢の製紙法，宋の印刷術（木版印刷術が普及した。北宋の畢昇が膠泥活字を発明するが普及せず），火薬，羅針盤（磁針）は中国の四大発明とされる。

７　洪武帝はモンゴル部族の脅威に対し，部下の将軍たちより息子たちの方が信頼できるとモンゴル国境に息子たちを配した。北京を任されていた第４子の燕王朱棣が，靖難の役（1399

～ 1402）で永楽帝（位 1402 ～ 24）として即位した。

８・９・10　オイラトがエセン＝ハン（？～ 1454）の下で強大化し，明の正統帝（英宗；位 1435 ～ 49）が北京近郊の土木堡で捕虜となった土木の変（1449）は北虜南倭の１つ。

設問２　基本問題。冊封体制は中国国内の君臣関係を諸外国の首長との関係にも当てはめ，中国を中心とした国際的君臣関係，周辺諸国は唐に朝貢し，唐を中心とした国際秩序を形成した。その背景にあるのが中華思想で，中国＝世界の中心であり，諸外国＝文化的に遅れた夷狄である，と見なす考え。外交・貿易を目的とし，諸外国が中国の君主の徳を慕い，貢物を持って来訪する形式を朝貢と呼び，一種の貿易関係（朝貢貿易）が行われた。

設問３　マルコ＝ポーロがザイトンと呼び，『世界の記述（東方見聞録）』の中で世界第一の貿易港と紹介した福建省の港市。

設問４　設問１－７参照のこと。

設問５　一般教養。室町幕府第３代将軍足利義満は 1392 年に南北朝を統一し，1401 年に明との国交を開き，明から日本国王に封じられ，勘合貿易を行った。

設問６　江西省の景徳鎮。地図でも確認しておくこと。

設問７　モンケ＝ハンに命じられ，南宋包囲網形成のために大理国を滅ぼしたから，元の支配ということになる。雲南にはチベット＝ビルマ系の国で，仏教が栄え，唐より雲南王に封じられる南詔国（？～ 902）があった。南詔は唐から離反し，諸勢力に分裂して滅亡した。南詔国滅亡後，タイ人白蛮族が建国した国で，仏教が栄えた大理国（937 ～ 1254）も押さえておくこと。フビライの率いるモンゴル軍により滅亡するとタイ人が東南アジアに南下し，スコータイ朝を建国（1257）したのではないか，とされている。

設問８　東林派は張居正に反抗した顧憲成を指導者として東林書院に拠った政治党派。東林等に反対した非東林派は，宦官の魏忠賢と組み，東林派を弾圧した。

設問９　東は河北省と遼寧省の間の山海関から，西は甘粛省の嘉峪関まで，長城が建設された。

【4】

解答

問１　A　『永楽大典』　B　陸九淵　C　李贄（李卓吾）　D　『天工開物』
　　E　ポルトガル　F　スペイン

問２　(1)　湖北省・D　湖南省・G　(2)　安徽省・C

問３　(a)　ニ　(b)　ホ　(c)　リ

問４　(1)　ツヴィングリ　(2)　『キリスト教綱要』　(3)　アンリ４世
　　(4)　トリエント公会議　(5)　イグナティウス＝ロヨラ

解説

明代の主要な出来事を主体に，同時代の西洋史もあわせて出題している。ある地域について学習したら，同時代の別の地域での動きにも注意してみよう。

問１　空欄補充問題。格別難しい単語もないため，惑わされず確実に答えていきたい。

A　類書とは問題文にもあるように中国式百科事典のことで，多くの書物の中に見える事項を分類し，項目立てて編集したものである。中国最大の類書は，この問題の正解となる明代の

『永楽大典』２万2877巻であるが，他に有名なものとして，宋代の李昉（りぼう）らの『太平御覧』，王欽若らの『冊府元亀』，清代の『古今図書集成』などがある。

B　陽明学に至る思想的な変遷をチェックしておくこと。併せて古代から清朝末期までの儒学の歴史も押さえておくべきである。

C　李贄（りし）。字（あざな）は卓吾。福建省の回教徒の家に生まれた彼は，陽明学左派に属し，礼教の偽善を罵倒したため，迫害されて北京の獄中で自殺した。

D　明代の産業技術書といえば宋応星の『天工開物』である。農業に関することイコール『農政全書』としないように，注意深く問題文を読む必要がある。こちらの著者は徐光啓である。徐光啓はマテオ＝リッチ（利瑪竇）らと親交が深かったため，著書『農政全書』にも西洋の技術に触れるところが多いが，これとは逆に『天工開物』では中国にも西洋に劣らない優秀な技術が存在することを主張したかったらしく，西洋技術に関する記述が比較的少ない。

E・F　ヨーロッパで大航海時代が幕を開けた16世紀以降は，ヨーロッパでの出来事を世界的規模にまで拡大して考えなければならない。これもその一例で，西欧史で学習した16～18世紀の対外貿易覇権争いの過程を，中国という局地的視野から切り取ったものといえる。16世紀に最初に対外貿易の覇権を握ったのはポルトガルであり，それはスペインへと移っていくわけだが，この問題でもその流れに合わせて，Eにはポルトガルが，Fにはスペインが当てはまる。これらは「マカオ」や「マニラ」といった各々の本拠地をヒントにしても解けるだろう。

問２　地図を使った問題。言葉では知っていても，その地域がどこに当たるか，それが分からないと解けない問題が世界史ではかなり多い。歴史地図や資料集などを参考に，視覚的な理解も深めたい。湖広とは湖北省と湖南省の総称である。ちなみに江浙は江蘇省（地図Ｂ）と浙江省（地図Ｅ）の総称である。新安商人の出身地は安徽省であるから，その場所を選べばよい。

問３　これも地図を使った問題。しかし今回の場合，地図の指定がそれほど細かくないので，基本的な知識があればあとは類推でも解けるだろう。(a)の蘇州は長江沿いで東シナ海に近い都市であるからニが正解である。(b)の景徳鎮も長江沿いのそれほど奥地ではない都市を選ぶとホとなる。(c)のマカオは広州の近くにあるからリを選択すればよい。

問４　ヨーロッパ近代史に関する基本的な問題。

(1)　「チューリヒ」と「1531年にカトリックとの戦いで殺された」というキーワードから正答を絞り込める。

(2)　基本問題。カルヴァンの『キリスト教綱要』とルターの『キリスト者の自由』は混同しやすいので注意しよう。

(3)　これも基本問題。ナントの王令発布（1598）によりユグノー戦争は終結した。このナントの王令をルイ14世が1685年に廃止した波紋も押さえておきたい。

(4)・(5)　宗教改革と併せて対抗宗教改革の動きにも注意しよう。とくに対抗宗教改革では海外伝道に与えた影響の大きさも把握しておきたい。

【5】

解答

a　青海または新疆　　b　八旗　　c　三藩の乱　　d　『古今図書集成』

e　『四庫全書』

問(1)　(ア)　殿試　　(イ)　進士　　問(2)　(ア)　弥勒下生説　　(イ)　四川省

問(3)　(ア)　李贄　　(イ)　王陽明

解説

清朝最盛期の国内・国外政策についてまとめた問題。空欄補充・単答ともに基本的であるので，取りこぼすことなく正解しておきたい。

a　清は広大な領域を支配した。中国内地・中国東北地方・台湾を直轄領とし，モンゴリア・青海・チベット・新疆（東トルキスタン）を藩部とした。藩部は中央に置かれた理藩院によって統轄され，原則的に自治を許した。また清は，朝鮮・ヴェトナム・ミャンマー・タイなどを属国とした。属国は清を宗主国とし，朝貢した。

b　清の正規軍である八旗は，ヌルハチ（太祖；位 1616 ～ 26）によってつくられた。黄・白・紅・藍の４色と，そのそれぞれに縁取りをした合計８つの旗を，軍の印とした。ホンタイジ（太宗；位 1626 ～ 43）の時には，蒙古八旗・漢軍八旗がつくられた。八旗は軍事組織であっただけではなく，社会組織にもなった。緑営は漢人を中心に編成された正規軍であり，緑の旗を印とした。

c　清は明の武将であった漢人の呉三桂の先導で華北に入り，北京に入城した。呉三桂ら３人の漢人武将は，清の中国平定を助け，雲南など３藩に封じられた。しかし彼らの勢力が強大となったため，康熙帝（位 1661 ～ 1722）は彼らの勢力を削減しようとした。これに対して呉三桂らが 1673 年に三藩の乱を起こし，清は 81 年にようやく反乱を鎮圧した。

d　清代には大規模な編纂事業が行われた。『古今図書集成』の編纂は康熙帝の命で行われ，雍正帝（位 1722 ～ 35）の時代に完成した。古今の図書を集めて分類・解説した大百科辞典であり，１万巻に及んだ。

e　『四庫全書』の編纂は乾隆帝の命で行われた。これは，古今の図書を集めて経（儒教）・史（歴史）・子（諸子百家など）・集（文学）の４部に分類した叢書であった。約８万巻あり，７部つくられた。これらの編纂事業の実施は，漢人学者に活躍する場を与えるとともに，反清的な書物を焼却するなど思想統制を行う目的もあった。

問(1)　中国では，一時中断はあったものの，隋代から清代の 1905 年に廃止されるまで，官吏任用のために科挙が行われた。また，宋代には科挙の最終試験として，皇帝自らが試験をする殿試が始まった。皇帝の意向で合格者の序列が決定し，任官を左右したことから，合格者と皇帝とのつながりが深まり，君主独裁が強まった。科挙に合格した者は進士と呼ばれた。

問(2)　(ア)　白蓮教は仏教的色彩の強い民間の宗教結社である。衆生の救済のために弥勒仏が出現するという弥勒下生の信仰を中心とする。白蓮教徒は元代の 1351 年にも，紅巾の乱という大反乱を起こしている。

(イ)　清代の 1796 年には湖北・四川省を中心に，白蓮教徒の乱が起こった。この反乱は 10 年ほど続いた大反乱であった。反乱の鎮圧にあたっては，清の正規軍である八旗や緑営の弱体化

が露呈し，代わって漢人の義勇軍である郷勇が活躍した。この反乱以降，清の衰退は急速に進展する。

問(3) (ア) 李贄は陽明学の影響を受け，陽明学左派と呼ばれる。彼は知識や因習で歪められる前の人間本来の純真性を尊ぶ童心説を説いた。道徳の教えを絶対とする儒学を偽善として攻撃したりしたことから，危険思想家とされ，投獄された。彼の著作は何度も発禁処分を受けた。

(イ) 明では，南宋の朱熹が大成した朱子学が官学とされた。これに対し，16 世紀初めに王陽明が陽明学を開いた。陽明学は儒学の一派で，主観を重視し，知識と行動は同一であるとする知行合一などを説いた。

【6】

解答

1 e　2 b・d　3 c　4 e　5 c　6 c・d　7 d　8 d
9 a　10 d　11 e　12 b　13 a

解説

元から清中期までの中国と諸外国との交渉がこの問題のテーマである。やや細かい事項の正誤が問われているので，細部まで注意深く検討しよう。

1　すべて問題なし。プラノ＝カルピニ（1182 頃～ 1252）はローマ教皇インノケンティウス４世の命により，モンゴルの偵察と布教の勧告を兼ねて 1245 年リヨンを出発し，当時のモンゴル帝国の首都カラコルム（和林）を訪れたのち，1247 年に帰国した。彼が著した旅行記は，モンゴル研究の上でルブルックの旅行記とともに貴重な史料である。

2　モンテ＝コルヴィノ（1247 ～ 1328）はフランチェスコ派の修道士。彼はイル＝ハン国を経て元の首都である大都（北京）に至り，この地に教会を建て，大司教として死ぬまで布教活動を行った。これが中国における初のカトリック伝道である。また，聖書のモンゴル語訳を行ったと伝えられる。成都は四川省の中心都市で，モンテ＝コルヴィノとは関係がない。

3　ヴェネツィア出身のマルコ＝ポーロ（1254 ～ 1324）が仕えたモンゴルの皇帝は，元のフビライ＝ハン（世祖）である。彼は色目人官僚として活躍した。

4　問題なし。ティムール帝国は中央アジアの覇者ティムールが 1370 年に建国した王朝である。彼は明への遠征途上に中央アジアのオトラルで病死したが，これもよく問われるので注意しておこう。

5　鄭和の大航海は合わせて７回であり，最後の第７回航海は，永楽帝の孫である宣徳帝の時代に行われた。鄭和は第７回航海の直後に没したと見られる。清末に発見された鄭和の父の墓誌によると，鄭和の家系の本来の姓は馬で，父の名は馬吟只（マハジ），祖父の名は哈只であることがわかったが，この哈只とはアラビア語の Hadjdj（ハッジ）を漢訳したもので，メッカに巡礼したイスラーム教徒に与えられる一種の称号である。また馬という姓もマホメット（ムハンマド）の頭音を取ったものでイスラーム教徒に多い姓である。よって鄭和は雲南生まれのイスラーム教徒であったと推測されている。鄭和の大航海によって南海貿易が促進され，明の国威が示されたが，他に南洋華僑発展の契機となったことも記憶しておこう。

6　ポルトガルがインドのゴアに総督府を置いたのは16世紀初頭の1510年のことであり，さらに1511年には香辛料の主産地であるモルッカ諸島に到達した。このポルトガルの中国貿易の根拠地はマカオであり，その居住権を獲得したのは1557年のことであった。

7　イタリア人のイエズス会士であるマテオ＝リッチ（利瑪竇；1552～1610）は，世界地図である坤輿万国全図を作成し，ユークリッドの『幾何原本』を翻訳したほか，カトリック教義を漢文でまとめた『天主実義』を著している。これはひっかけ問題。

8　ドイツ人のイエズス会士アダム＝シャール（湯若望；1591～1666）は，暦法や大砲鋳造などの科学技術を伝え，『崇禎暦書』の作成に参加した。『幾何原本』の漢訳は上述のマテオ＝リッチが行っているので，これは誤りである。

9　これはルブルックではなくブーヴェ（白進；1656～1730）の業績である。彼は康熙帝に仕え，『康熙帝伝』を著した。ルブルック（1220頃～93頃）はフランチェスコ派の修道士であり，フランス王ルイ9世の命によりモンゴルへ旅立ち，1254年にカラコルムでモンケ＝ハン（憲宗）に会った。この経験を後に旅行記にまとめている。

10　清朝初期にキリスト教を全面禁止したのは雍正帝であり（1724），乾隆帝はこれに続いて対外貿易を広州1港とし，公行を通した制限貿易体制を敷いた（1757）。

11　問題なし。

12　やや難。足利義満の時代の日明貿易は倭寇との区別をはかるために勘合符を使ったことから勘合貿易と呼ばれている。朱印船貿易は徳川家康の時代に盛んに行われ，その名は家康が出した貿易許可証（朱印状）に因んでいる。

13　鄭成功が追い出した台湾を占領していた勢力はオランダ人である。オランダ人が築いた砦跡は，現在台北近郊の淡水（紅毛城）や台南近郊の安平（ゼーランディア城）に残っている。

【7】

解答

設問1　ニ　　設問2　イ　　設問3　ロ　　設問4　イ　　設問5　ニ　　設問6　ニ
設問7　ロ　　設問8　ハ

解説

前漢～清までの税制・財政に関する問題。経済史は受験生が苦手にしやすい分野であるが，とくに法・経済・商学部などの社会系学部ではよく出題されている。土地制度・軍事制度の変遷とともに改めて整理しておきたい。

設問1　帯方郡は後漢末に楽浪郡の南部を割いて設置された。敦煌郡は武帝の西域進出の拠点として設置された河西4郡の1つであり，楽浪郡・臨屯郡は武帝による朝鮮征服の際に置かれた朝鮮4郡に属する。

設問2　武帝が鋳造させたのは五銖銭である。五銖銭は隋代まで長く用いられた。半両銭は秦で鋳造された貨幣であり，始皇帝はこれを統一貨幣と定めた。

設問3　8世紀頃には均田制が崩壊し，それとともに軍事制度である府兵制も衰退した。玄宗は府兵制に代わり傭兵制度である募兵制を創始した。なお，ハの五経正義の編纂は太宗の命によるものである。

設問４　唐代の租庸調は丁男のみに課された。

設問５　猛安・謀克は金の完顔阿骨打が創始した軍事・行政組織である。

設問６　王安石が実施した新法のうち，募役法では，差役（徴税・治安維持のための労役奉仕）を免除する代わりに免役銭を徴収し，これを雇銭として差役を望む者を募集する政策が行われ，従来免役の特権を有していた官戸からも金銭を徴収した。なお，イは均輸法，ロは青苗法，ハは市易法に該当する。

設問７　新安商人は安徽省徽州府出身の商人で，塩の売買を中心に活躍した。

設問８　四庫全書は古今の書物を集めた一大叢書で，乾隆帝の命で編纂された。

4章　朝鮮・内陸アジア史

問題

【1】

解答

空欄

a　アルタイ　　b　殷　　c　楽浪　　d　辰韓　　e　帯方　　f　新羅　　g　唐
h　渤海　　i　モンゴル　　j　李成桂　　k　銅活字

解説

朝鮮半島の歴史を伝説的古代から近代に至るまで眺めた問題。リード文自体はかなり細かい所まで踏み込んで解説してあるが，設問となっている空欄部分はどれも基本的なものが多いので，全問正解をめざしたい。

a　日本語と朝鮮語が属する語族を答えればよい。両言語がアルタイ語族であるかどうかは異説も多いが，受験世界史ではアルタイ語族と覚えておけばよいだろう。

b　箕氏（きし）は殷の王族で，周の武王による殷の滅亡後に東方に亡命して，朝鮮で王朝を樹立したという。しかし箕氏朝鮮，そしてそれ以前に存在したという檀君朝鮮も伝説的色彩が濃い。

c　前漢の武帝が朝鮮に直轄4郡を設置したのは前108年のことである。直轄4郡ということで，空欄に入れるのは他の玄菟・臨屯・真番でも構わないのか，と思いがちだが，この郡が「朝鮮北半」を支配したことや，問題文の後の部分でこの空欄にあてはまる郡が後4世紀初めまで存続していたことがわかるため，「楽浪」郡が正解となる。ちなみに問題文では「〔　c　〕郡」となっているので，解答に「郡」をつけると減点対象となる。空欄補充の場合には，このような細かい部分にまで注意を払うこと。

d　馬韓から百済が，弁韓から加羅が，辰韓から新羅が台頭していくつながりをしっかりと把握しておくこと。またその位置も，必ず地図で確認しておこう。

e　「遼東半島の公孫氏が築いていた」がキーワード。「帯方」郡は204年頃に設置された。ちなみに公孫氏は漢族の豪族であることを確認しておくこと。313年，楽浪郡は高句麗に，帯方郡は漢族・貊族にそれぞれ滅ぼされる。

f　dで述べた通り。辰韓から興り，この地を統一したのは新羅である。

g　新羅が唐と結んで朝鮮最初の統一国家を作った，というのは，新羅・唐連合軍が660年に百済を，そして68年に高句麗を滅ぼしたことをさしている。この後，新羅は唐の干渉を退け，676年に初めて朝鮮半島を統一した国家となる。

h　渤海は，高句麗の移民や靺鞨人を率いた大祚栄が698年に中国東北部および朝鮮半島北部に建国した。建国当初は震と称したが，713年に唐から「渤海」の国号を与えられ，以降渤海と名乗った。唐の文化を導入し，日本と通交したことでも有名。この王朝は926年に契丹により滅ぼされた。

i　「13世紀半ば」という時代設定および「日本遠征」の基地という2つのキーワードから，

モンゴルが正解となる。高麗は1258年に崔氏政権が倒されたのちモンゴル帝国に服属したが，世祖フビライが元朝を開くのが1271年であるから，ここで「元」と答えると誤答もしくは減点となる。気をつけよう。なお，元朝が高麗を基地として日本に遠征するのがいわゆる元寇（蒙古襲来；1274，81）である。

j　高麗の次の朝鮮王朝，すなわち朝鮮王朝（李氏朝鮮）の始祖を答えればよい。

k　第3代太宗が1403年に勅命で鋳字所を創設し，銅活字を作らせた。以後，出版活動が盛んとなっている。

【2】

解答

問1　A　魏　　B　平壌　　C　大蔵経　　D　世宗

問2　2　　問3　4　　問4　4　　問5　3　　問6　4　　問7　4　　問8　2

問9　3

解説

衛氏朝鮮の時代から高麗に至るまでの朝鮮と中国の関係がこの問題のテーマである。朝鮮や日本などの東アジア諸国は，中国王朝から様々な影響を受けている。とくに中国と朝鮮の関係は密接なので，しっかりと頭に入れておこう。

問1　A　やや難。魏（220～65）は後漢を継ぐ王朝として，遼東半島に勢力を持った公孫氏を討伐し，その勢いで244年から46年にかけて大規模な高句麗遠征を行った。

B　高句麗の都は2世紀末に丸都城（国内城）に置かれたが，427年に平壌に移され，以後668年に唐に滅ぼされるまで高句麗の首都として繁栄した。

C　基本問題。高麗といえば，金属活字印刷で有名だが，『高麗版大蔵経』は木版印刷であり，版木は現存している。

D　これも基本問題。訓民正音は現在でも使われている韓民族の国民的文字である。

問2　『三国遺事』は高麗の僧一然が著したもので，三国とは新羅・百済・高句麗のことである。

問3　前漢の武帝による衛氏朝鮮の征討と朝鮮4郡の設置は，しっかりと押さえておきたい。

問4　前漢の武帝が前108年に設置した朝鮮4郡は楽浪・真番・臨屯・玄菟である。帯方郡は後漢末の204年頃に遼東半島の豪族・公孫氏が設置した郡なので，混乱しないこと。4以外の選択肢はすべて漢の南方の直轄郡である。南海郡は前214年に秦の始皇帝が設置したが，前203年に秦末の混乱に乗じて漢族の趙佗が南越国を建てた。これを前漢の武帝が前111年に滅ぼすが，この時に設置した9郡に，九真郡・交趾郡・日南郡はそれぞれ含まれている。

問5　唐・新羅連合軍によって高句麗が滅ぼされたのは668年。この当時の唐の皇帝は3代高宗（位649～83）である。彼の時代に唐は百済や高句麗を滅ぼし，その領土は最大となった。

問6　やや難。後晋の石敬瑭が遼に対し，建国援助の代償として燕雲十六州を割譲したのが936年。後漢の建国は947年である。朱全忠が唐を滅ぼしたのは907年で，排仏を行った後周の世宗の在位年は954～59年である。また，李存勗（りそんきょく）が後梁を滅ぼして後唐を建国したのは923年。よって，10世紀前半という問題設定に当てはまらないのは4となる。

問7　チンギス＝ハンは1227年に西夏を滅ぼした。オゴタイ＝ハンの命により，バトゥはキ

エフ公国を攻めてキプチャク＝ハン国を建国し，キエフ公国の諸侯はこれに貢納した。モンゴルによる苛烈な支配は“タタールのくびき”といわれる。モンケ＝ハンの命により，フラグはアッバース朝を1258年に滅ぼし，フビライは1287年にビルマのパガン朝に侵攻した。このようにモンゴルの侵攻は13世紀の出来事であるが，タイのアユタヤ朝は1351年に創設された王朝であり，選択肢にある他の王朝と時代がずれている。

問８　ヌルハチ（位1616～26）は1616年に女真族の国家である後金を創設し，次のホンタイジ（位1626～43）は1636年に国号を清と改称し，中国を支配する意図を明らかにした。また，中国包囲作戦の一環として２度にわたって李氏朝鮮に侵攻し，これを服属させた。そして第３代順治帝（位1643～61）時代の1644年に山海関を抜いて北京に入城し，清は北京・紫禁城の主となる。その後康熙帝（位1661～1722）の時代には，呉三桂らによる三藩の乱（1673～81）を平定し，1683年に鄭氏台湾を服属させ，中国全土の支配を完成させた。また康熙帝の子雍正帝（位1722～35）は青海・チベットの征討を行った。

問９　基本問題。朝鮮王朝（李氏朝鮮）を開いた李成桂と混同しないこと。

【３】

解答

①　ハ　②　ニ　③　ロ　④　イ　⑤　ロ　⑥　ハ　⑦　ロ　⑧　イ
⑨　ハ　⑩　ロ

解説

朝鮮と日本との交流史．やや難しい設問も含まれている。

①　名称を覚えるだけでなく，地図で位置を確認しておこう。

②　百済の王都に関する問題。伝説によると百済最初の王都は慰礼城であったという。その後漢城に遷都され，高句麗の南進により475年には熊津（現在の忠清南道公州）に遷都，さらに538年には夫余に南遷した。

③　好太王は広開土王とも呼ばれる。広開土王の碑は同王の死後２年を経た414年に建立されている。

④　倭の五王に関する最も古い記録は『宋書』倭国伝に掲載されている。倭の五王とは，讃，珍（彌），済，興，武の５人をさし，５世紀に中国の南朝に９回遣使したという。讃は仁徳または応神・履中に，珍は反正または仁徳に，済は允恭に，興は安康に，武は雄略の諸天皇にそれぞれ当たると考えられている。邪馬台国の女王，卑弥呼に関する記載がある『魏志』倭人伝と混同しないこと。

⑤　慶州には新羅時代の仏寺である仏国寺が残っているが，木造建築物はすべて兵火で消失しており現存しない。現在に残る多宝塔は石造のものである。その他の選択肢に誤りはない。

⑥　ａ・ｂ　夫余（扶余）はツングース系とされる貊族が中国東北部に建てた国家（前１世紀～後494）であるが，同じツングース系の国家・高句麗と対立していた。

ｃ　前漢以来中国王朝の郡県支配の拠点となっていたのは楽浪郡である。帯方郡は，後漢末に遼東半島の豪族公孫氏が設置した郡である。

ｄ　隋の高句麗遠征は３度実施されたが，いずれも初代の文帝ではなく，第２代皇帝の煬帝

の時代である。この遠征の失敗が，隋滅亡の一因ともなっている。

⑦　やや難。白村江は錦江の下流，河口付近の地名である。

⑧　高麗王朝の創建者は王建であるが，その出自は定かではない。王隆は新羅末期の反乱軍の指導者である弓裔（きゅうえい）の傘下に入り，その武将として活躍。918年クーデタによって弓裔を追放し，王建は国王として高麗王朝を開いた。首都は彼の根拠地である開城である。

⑨　a　朱元璋が明を建国し，元を北方へ追い払った1368年は，高麗（918～1392）王朝の末期に当たる。高麗内では当時，親元派と親明派の闘争があったが，国王は親明の方向を明確に打ち出した。その後1392年に李成桂が朝鮮王朝（李氏朝鮮）を建国し，翌93年に明に朝貢して朝鮮と国号を定めるなど，明との関係が重視されている。

d　鉛活字ではなく銅活字。また，訓民正音が制定されたのは第4代の世宗の時代である。

⑩　中学社会で豊臣秀吉の朝鮮侵略は文禄の役，慶長の役と習っただろうが，受験世界史では壬辰・丁酉の倭乱（1592～93，97～98）と覚えておこう。この侵略によってほぼ朝鮮全土が戦場となり，人的・物的に多大な被害を被った。またこの時に朝鮮へ援軍を派遣したのは明の万暦帝であるが，この時の莫大な出費が明衰亡の一因ともなっている。

【4】

解答

(1)　㋒　(2)　㋑　(3)　㋐　(4)　㋒　(5)　㋐　(6)　㋒　(7)　㋒　(8)　㋐
(9)　㋓　(10)　㋑

解説

遊牧騎馬民族に関する問題である。各民族について，活躍した世紀・民族系統・勢力範囲・対峙した中国王朝を確実に覚えておくようにしよう。

(1)　匈奴はスキタイ人の騎馬文化を取り入れた。スキタイ人は前6～前4世紀頃に南ロシアの草原地帯を支配した民族で，武具や馬具に施された動物文様や黄金の使用などが文化的特徴として挙げられる。

(2)　匈奴の君主の称号である単于は，鮮卑・氐・羌でも使用された。なお，㋐の可汗は柔然で用いられた君主の称号で，突厥・ウイグルなどでも使用され，モンゴルで使用されるハン（カン）のもととなった。

(3)　匈奴は前4世紀末～後1世紀にモンゴル高原で活躍した。吐蕃は7～9世紀にチベットを支配した国家である。東胡は匈奴の冒頓単于の攻撃で滅亡した。月氏は匈奴に追われてイリ地方に移動したが，同じく匈奴の支配を受けていた烏孫による圧迫を受けてアム川上流のソグディアナ地方へ移動して大月氏と称した。

(4)　五胡とは北方系の匈奴・鮮卑・羯と，チベット系の氐・羌の5民族である。柔然は5～6世紀にモンゴル高原で活躍したモンゴル系遊牧民で，北魏と対抗したが，6世紀中頃には突厥によって滅ぼされた。

(5)　契丹はシラ＝ムレン川流域で遊牧生活を送っていたが，10世紀初頭には耶律阿保機が東モンゴルに遼を建国した。その後渤海を滅ぼし，燕雲十六州を獲得するなど領土を拡大してモンゴル・中国東北地方・華北の一部を支配した。

⑹　徽宗は靖康の変で金に捕らわれ，金の地で病没した。南宋を再興したのは徽宗の子の高宗である。

⑺　広大な領地を支配した金は，女真族に対しては猛安・謀克制を，漢人に対しては州県制を用いるという二重統治体制を採った。

⑻　カラコルムはモンゴル帝国の第２代皇帝オゴタイ＝ハンによって建設され，第４代皇帝モンケ＝ハンの時代まで首都とされた。

⑼　ナイマンは10～13世紀にモンゴル高原西部で活躍したトルコ系遊牧民で，13世紀初頭にチンギス＝ハンによって征服された。

⑽　チャガタイ＝ハン国はイリ川からシル川にかけての地域を支配した。14世紀には東西に分裂し，西チャガタイ＝ハン国からティムールが台頭して，14世紀後半にはサマルカンドを首都として自らの帝国を築いた。なお，オゴタイ＝ハン国（事実上存在しなかったという説もある）は現在のジュンガリア地方，キプチャク＝ハン国は南ロシア，イル＝ハン国はイラン地方をそれぞれ支配した。地図上でも支配領域を確認しておくこと。

【5】

解答

A　イ　完顔阿骨打　　ロ　猛安・謀克　　ハ　燕京　　ニ　アリクブケ　　ホ　緑営
ヘ　理藩院

B　1　c　　2　d　　3　d　　4　州県制　　5　a　　6　a　　7　c　　8　c
9　ミニアチュール（細密画）　　10　b　　11　c　　12　満漢併用制　　13　c
14　チベット語

解説

北魏～清のモンゴル高原を支配した民族・王朝の歴史を概観した問題。基本的な内容を中心に出題されている。リード文もよく読んで，モンゴル高原における諸民族の興亡の流れをつかんでおこう。

A　イ・ロ　完顔阿骨打は，中国東北地方に金を建国し，北宋と結んで遼を滅ぼした。金は漢民族に対しては州県制を用いて支配したが，女真族に対しては部族制に基づく猛安・謀克を適用した。

ハ　現在の北京に当たる燕京は1123年に完顔阿骨打によって占領され，1153年には首都とされた。

ニ　ハイドゥとの混同に注意。フビライ＝ハンの弟であるアリクブケはカラコルムで即位してフビライに対抗したが，1264年に降伏した。ハイドゥはオゴタイ＝ハンの孫に当たり，アリクブケの挙兵を支援した。アリクブケ降伏後も反抗を続け，反乱は40年近くに及んだ。

ホ　清朝では八旗と呼ばれる独自の軍事組織が採用され，満州八旗・蒙古八旗・漢人八旗が置かれた。この八旗に次ぐ清朝正規軍の１つとして，漢人で編成された緑営が置かれた。

ヘ　理藩院は清朝の中央官庁で，藩部の管轄を担った。ホンタイジの内モンゴル平定時にその原型が成立し，乾隆帝時に藩部が拡大したことにより，体制の整備が進んだ。

B　1　太武帝は北魏の第３代皇帝で，寇謙之を重用して道教を国教とする一方で，仏教を弾

圧した。都を平城から洛陽に移したのは第6代皇帝孝文帝であり，雲崗石窟の造営も概ねこの時期に行われた。また，科挙の仕組みを作ったのは隋の楊堅（文帝）である。

2　マニ教は3世紀に創始された，ゾロアスター教にキリスト教・仏教の要素を融合した宗教である。ササン朝では一時期を除いて弾圧されたが，その後東西に伝播し，ウイグル人の間で国教とされた。

3　耶律阿保機は遼の初代皇帝で，契丹族を率いて東モンゴルに建国し，東北地方の渤海を滅ぼした。その他の選択肢はいずれも遼の時代の出来事としては正しいが，耶律阿保機の事績ではない。

4　遼では，遊牧民は北面官のもと固有の部族制で統治し，定着農耕民は南面官のもと州県制によって統治した。

5　カラ＝ハン朝は11世紀中頃に東西に分裂して弱体化し，のちにセルジューク朝や西遼の支配下に入った。

6　フランス出身のフランチェスコ派修道士ルブルックは，フランス王ルイ9世の命を受けて派遣され，1254年にモンケ＝ハンに面会し，55年に帰国した。プラノ＝カルピニはイタリア出身のフランチェスコ派修道士で，教皇インノケンティウス4世の命を受けて派遣され，1245年にグユク＝ハンに親書を渡し，47年に帰国した。モンテ＝コルヴィノはイタリア出身のフランチェスコ派修道士で，1294年に大都に到着して大司教に任ぜられ，中国最初のカトリック布教者となった。マリニョーリはイタリア出身のフランチェスコ派修道士で，1342年に大都を訪れ，1350年前後に帰国した。

7　細かい。元ではモンゴル人を優遇し，当初科挙を中止していたが，1313年に復活した。

8　交鈔は金・元代に発行された紙幣で，銀とともに広く流通したが，のちに乱発されて財政困難の一因となった。交子は世界最初の紙幣で北宋の時代に発行され，会子は南宋で発行された紙幣である。牌子は牌符とも呼ばれ，旅行者が携行する証明書である。

9　ミニアチュール（細密画）は，書物の挿絵や装飾に描かれた精密な絵画で，イル＝ハン国の成立で中国絵画の技法がイスラーム世界に伝わったことにより西方で発展した。

10　訓民正音は第4代の世宗によって制定された。世宗は訓民正音制定のほか，出版事業を振興するなど文化面で活躍したほか，官制の整備や領土拡大など内政・外交においても成果を挙げた。

11　漢人武将で清の中国統一に助力した武将を藩王と呼び，雲南の呉三桂，広東の尚可喜，福建の耿継茂が一大勢力であった。彼らは康熙帝の藩王抑圧に対して1673年に反乱を起こしたが，81年に鎮圧された。以上のことを押えていれば，消去法で四川が正答であると判断できるだろう。

12　清では，六部などの重要な役職を，満州人と漢人同数任命する満漢併用制を採った。

13　藩部とは，清に支配された外モンゴル・青海・チベット・新疆の総称である。台湾は康熙帝によって平定され，直轄地とされた。

14　清朝の支配下に置かれた民族の系統を想起しよう。直轄領における女真族・漢民族のほか，モンゴル系，ウイグルなどのトルコ系，チベット系などの民族が清の版図には含まれている。したがって，残る言語はチベット語となる。

5章　東西交渉史・中国文化史まとめ

問題

【1】

解答

問1　(1)(2)　18　(3)(4)　39　(5)(6)　50　(7)(8)　34　(9)(10)　33　(11)(12)　22
(13)(14)　26　(15)(16)　46　(17)(18)　14　(19)(20)　47　(21)(22)　13　(23)(24)　27
(25)(26)　31　(27)(28)　44
問2　1　問3　[1]　プランバナン寺院群　[2]　ボロブドゥール
問4　肉の保存などに必要だが欧州では生産できず輸入に依存したため。(30字)
問5　[1]　ポルトガル　[2]　オランダ　[3]　イギリス
問6　[1]　アッサム　[2]　イギリス領インド帝国

解説

「海の道」での商活動をテーマに，幅広い範囲から出題されている。リード文の末尾には商学部をめざす受験生へのメッセージが掲載されており，慶應大学商学部がどのような学生を求めているかを把握する一助となるだろう。

問1　(1)(2)　オアシスの道は，東西トルキスタンのオアシス都市をつないで，地中海東岸から洛陽・長安を結ぶ交通路である。

(3)(4)　アッバース朝の首都バグダードは，唐の首都長安と並ぶ国際的大都市として繁栄した。

(5)(6)・(7)(8)・(9)(10)　ムスリム商人は8世紀頃から三角帆の帆船であるダウ船を用いて海上交易を行っていた。10世紀頃になると，中国商人もジャンク船を使用して海上交易に進出し，東西を結ぶ中継貿易が活発化した。

(11)(12)　10世紀前半，ジャワ東部のクディリを都としてクディリ朝が成立し，『マハーバーラタ』の影絵芝居（ワヤン）がジャワ語で行われるなど，独自の文化が発達した。

(13)(14)　13世紀初頭，ヒンドゥー王朝であるシンガサリ朝がジャワ東部で栄えたが，元と対立する中で衰退して滅亡した。

(15)(16)　ヒンドゥー教の王国であるマジャパヒト王国は，元軍を撃退して14世紀半ばに最盛期を迎えたが，イスラーム教徒の侵入によって衰退し，16世紀に滅亡した。

(17)(18)　マラッカ王国は15世紀半ばにイスラーム教を受容し，以後，東南アジアのイスラーム化の一大拠点となった。

(19)(20)　マタラム王国は16世紀末にジャワ島東部に建国されたイスラーム教国で，18世紀にオランダによって滅亡した。

(21)(22)　都護府は唐の周辺諸民族を統治するために置かれた機関で，ヴェトナムには7世紀に安南都護符が置かれた。

(23)(24)　アンコール朝はスールヤヴァルマン2世の治世下で最盛期を迎え，アンコール＝ワッ

トが造営された。

⑵⑸⑹　東南アジアの河川については地図上の位置も確認しておくこと。アンコール朝はメコン川とチャオプラヤ川の両川流域からマレー半島に至る地域を支配した。

⑵⑺⑻　ペグーは９世紀頃モン人が建てた港市国家で，14 世紀以後，トゥングー朝の 1635 年まで首都とされた。

問２　アンコール＝ワットは，ヴィシュヌ神を信仰していたスールヤヴァルマン２世によって当初はヒンドゥー教寺院として造営されたが，14 世紀頃から仏教寺院となった。

問３　８世紀頃にジャワ島中部に建国され，ヒンドゥー教が信仰された古マタラム国は，プランバナン寺院群を建設した。８世紀半ば～９世紀前半にジャワ島中部にマレー人が建てたとされるシャイレンドラ朝時代には，大乗仏教の大ストゥーパであるボロブドゥールが建設された。

問４　慶應大商学部では，短い字数で歴史の因果関係を端的に説明する論述問題が出題される。用語の丸暗記では太刀打ちできないので，過去問などで類題を演習しておこう。食事で肉を摂取する機会が多いヨーロッパでは，保存や調味のために香辛料の需要が高まった。しかし，香辛料はヨーロッパでは自生しないので，インド・東南アジアからの輸入に依存せざるを得なかったため，価格が高騰した。この流れを，30 字で凝縮して説明すればよい。

問５　マラッカは 1511 年にポルトガル，1641 年にオランダに占領された。ナポレオン戦争中にはイギリスによって占領され，1824 年正式にイギリス領となった。

問６　イギリスは 19 世紀半ば，３次にわたるビルマ戦争に勝利してコンバウン朝を滅亡させ，インド帝国に組み入れた。戦争のきっかけとなった遠征地域の名前はやや細かいが，「紅茶で有名」という記述を手がかりに，アッサムを想起しよう。

【2】

解答

a　フランチェスコ　　b　ルブルック　　c　ルイ９世　　d　バトゥ　　e　モンケ
f　カラコルム　　g　イェルサレム王国

⑴　マムルーク朝　　⑵　ア　ラテン帝国　　イ　ハギア＝ソフィア聖堂　　⑶　ジャムチ
⑷　ア　景教　　イ　エフェソス公会議　　⑸　トルコ人　　⑹　ルーム＝セルジューク朝

解説

ルブルックのモンゴル帝国訪問が題材となっている。リード文は専門的な内容となっているが，問われている用語自体はそれほど難しくはないので，確実に正解したい。

a　“アッシジの聖者”と称されたフランチェスコが 13 世紀前半に創設したフランチェスコ修道会は，ドミニコ修道会と並ぶ代表的な托鉢修道会で，財産の所有を禁止するとともに，積極的な布教活動を展開した。

b・c　フランチェスコ派の修道士ルブルックは，イスラーム勢力に対する十字軍を遂行中であったフランス国王ルイ９世（位 1226 ～ 70）の使者としてモンゴル帝国を訪れた。

d　モンゴル帝国のバトゥは，ヨーロッパ遠征を行い，1241 年のワールシュタットの戦いでドイツ・ポーランド諸侯連合軍を破ったのち，43 年，南ロシアにキプチャク＝ハン国を建

国し，ヴォルガ川下流域のサライを首都とした。ルブルックがモンゴル帝国を訪れた13世紀中頃，南ロシアはバトゥの支配下にあった。

e・f　ルブルックは，モンゴル帝国の第4代皇帝モンケ＝ハン（位1251～59）への謁見を許され，首都のカラコルムで彼に会見した。カラコルムは第2代皇帝オゴタイ＝ハン（位1229～41）によって建設され，第5代皇帝フビライ＝ハン（位1260～94）が1264年に大都（現在の北京）に遷都するまで，モンゴル帝国の首都であった。

g　第1回十字軍が1099年に建国したイェルサレム王国は，1187年にアイユーブ朝のサラディン（位1169～93）によってイェルサレムが奪われた後も存続したが，最後の拠点となったアッコンがマムルーク朝の攻撃によって1291年に陥落して滅亡した。

(1)　ルイ9世が主導した第6回十字軍の際，エジプトでは1250年にアイユーブ朝が断絶し，マムルークと呼ばれる奴隷軍人の集団がマムルーク朝を樹立した。

(2)　ア　1204年，第4回十字軍はビザンツ帝国の都であったコンスタンティノープルを占領してラテン帝国を建国した。ルブルックが訪れた13世紀中頃，コンスタンティノープルはラテン帝国の支配下にあったが，ビザンツ帝国の亡命政権であるニケーア帝国が1261年にコンスタンティノープルを奪回し，ビザンツ帝国を再建した。

イ　ビザンツ皇帝ユスティニアヌス（位527～65）によって建立されたハギア＝ソフィア聖堂（聖ソフィア聖堂）は，コンスタンティノープルの代表的な聖堂である。

(3)　モンゴル帝国では，主要道路の一定距離ごとに駅（站（たん））を設け，馬や食料を供給する駅伝制度が整備された。この制度はジャムチ（站赤）と呼ばれる。

(4)　イエスの神性と人性の分離を主張し，431年のエフェソス公会議で異端とされたキリスト教のネストリウス派は，7世紀前半に唐代の中国に伝えられ，景教と呼ばれた。景教は唐末の会昌の廃仏（845）の際に弾圧されて衰退したが，中央アジアなどに信者が残り，モンゴル帝国の時代に再び盛んになった。

(5)　トルコ系のイスラーム王朝であるセルジューク朝は，1071年のマンジケルト（マンズィケルト）の戦いでビザンツ帝国を破った。この戦いを契機に，多くのトルコ人が小アジア（アナトリア）に流入した。

(6)　マンジケルトの戦いののち，セルジューク朝から分離して1077年に成立したルーム＝セルジューク朝は，11世紀末以降，小アジア中部の都市コンヤを首都とした。

【3】

解答

A　董仲舒　　B　孔穎達　　C　訓詁　　D　周敦頤　　E　性理

(1)　書経　　(2)　李斯　　(3)　進士　　(4)　大学　　(5)　李贄（李卓吾）　　(6)　儒林外史

解説

慶應大の文学部は数年前から問題が比較的素直になってきている。空欄はすべて基本問題であるから，全問正解が望ましい。Eは見慣れない語ではあるが，用語集の宋学の項では言及されているので確認しておこう。設問の(1)・(4)は難問。儒学史は出題頻度が高いので，必ず整理しておきたいテーマである。

A　武帝は董仲舒（前 176 頃～前 104 頃）の献策に基づき，儒学を官学化し，五経の教授と普及を目的とした五経博士を設置した。

B　『五経正義』は科挙受験の際の基本書として，唐代に太宗が孔穎達や顔師古らに編纂を命じたものである。これにより儒学の解釈が固定化し，儒学の不振を招く一因となった。

C　訓詁学は，焚書・坑儒などによって失われた古典の復旧と解釈を行う学問で，後漢の時代に発達した。経書の字句解釈で馬融・鄭玄らが活躍し，唐代の『五経正義』により整理・統一された。

D　周敦頤は仏教の禅宗から影響を受け，訓詁学に代わる哲学的な要素を儒学に与え，『太極図説』で宇宙の生成過程を描いた。

E　宋・明がヒント。宋だけなら宋学＝朱子学とするところだが，宋・明における儒学という問から朱子学は避けて宋学の総称である性理学と答えるのがよいだろう。

⑴　四書五経の詳しい内容まで問うのは難問といえる。五経の『書経』は堯・舜以来の各国の歴史。『詩経』は華北に伝わる周代の祭祀の歌や民謡を戦国時代に儒家が編集したもの。『易経』は宇宙万物の生成変化を陰陽二元の法則に帰結し，これを人間道徳にも適応させた。『春秋』は魯の年代記。『礼記』は礼に関する解説論の書。四書の『大学』は『礼記』の一篇で「修身・斉家・治国・平天下」などを説いたもの。『中庸』も『礼記』の一篇。『論語』は孔子の弟子が，孔子の死後その言行をまとめたもの。『孟子』は孟子の説をまとめたもの。王道政治，性善説を説いたもので，井田制という一種の隣保制のことも書かれている。

⑵　李斯（？～前 208）は荀子の弟子。兄弟子の韓非の考えを利用して丞相として活躍，焚書・坑儒を行う。のちに韓非を殺害した。

⑶　秀才（時事問題）・明経（五経）・進士（文学）などが主な唐代の試験科目。以前の九品中正（“上品に寒門なく，下品に勢族なし”）に比べれば豪族の官界進出が抑えられたといえるが，科挙においても蔭位の制という父祖の官位に応じて任官が優遇される制度があった。宋では進士に一本化される。

⑷　難問，これをきっかけに覚えておこう。⑴の解説も参照のこと。

⑸　李贄（李卓吾；1527 ～ 1602）は陽明学左派に属し，儒学の礼教主義を批判し，「童心」を説き，『蔵書』『焚書』を著した。陽明学者は王陽明と李贄を覚えておけばよい。

⑹　『儒林外史』は時代設定を明代に採り，特定の主人公は登場せず，学者や書生など，次々と登場人物が入れ替わる内容で，科挙試験にまつわる人間の立身出世欲に関する醜さを風刺する。

【4】

解答

問1　A　ツ　B　ケ　C　ト　D　タ　E　ウ　F　エ　G　テ　H　サ　I　ク

問2　1　ス　2　キ　3　ミ　4　ホ　5　シ　6　イ　7　タ　8　テ　9　サ　10　エ　11　ハ　12　ム

解説

宋～清代の文化についてまとめたもの。漢字で正確に書けるようにしておきたい。

問１－Ａ～Ｄ・問２－２～４　従来の訓詁学を否定し，宇宙の原理や人間の本質を明らかにしようとする観点から宋学が成立した。宋学は北宋の周敦頤に始まり，程顥・程頤に受け継がれたのち，南宋の朱熹によって大成されたので朱子学とも呼ばれる。朱熹と同時代人の陸九淵は朱子学に反対して，経書よりも個人の徳性の養成を強調し，明の王守仁（王陽明）に引き継がれた。宋学は君臣・父子の別や華夷の区別（中華思想）などの大義名分を説き，上下の秩序を重んじる内容であったので，独裁的な君主政治の理念と合致したことから儒学の正統とされ，中国・朝鮮・日本・ヴェトナムへも大きな影響を与えた。

明・清の文化は社会経済の発達を背景として栄えた。朱子学は国家の教学とされ，永楽帝時代には大編纂事業が行われた。しかし朱子学は次第に形式化し，明末にはそうした状況を批判して知識人が積極的に政治を論じるようになった。明末清初には，実証的研究による実用的な学問の立場から考証学の基礎を築いた黄宗羲・顧炎武などの大学者が輩出された。

問１　Ｅ　ヴェネツィア生まれの商人マルコ＝ポーロはフビライ＝ハンの時代に元を訪問し，帰国して見聞談『世界の記述（東方見聞録）』を残した。元末にはムスリムでモロッコ出身のイブン＝バットゥータが来訪した。イブン＝バットゥータが旅した国々を通し，同時代に各地で成立していた王権や勢力をまとめてみよう。

問１－Ｆ～Ｉ・問２－９～10　明初以来の海禁は明末に緩められた（1567）。1549 年にはフランシスコ＝ザビエルが日本に初めてキリスト教を伝え，中国でも布教活動を行った。1583 年にはイタリア人マテオ＝リッチが中国に渡来し，布教のかたわら徐光啓らとエウクレイデスの『幾何原本（幾何学）』を訳したほか，李之藻とともに地球球体説に基づいた中国最初の世界地図である『坤輿万国全図』を作成した。暦の改定に当たり，ドイツ人アダム＝シャールは徐光啓らとともに『崇禎暦書』を編纂した。清朝では，アダム＝シャールやベルギーのフェルビーストらが活動し，イタリア人カスティリオーネは西洋風の離宮である円明園の設計に関わった。

問２　１　唐代の国際的な文化に対して，宋代の文化は漢族主義に純化した文化であった。また，唐代の文化が優雅で貴族中心のものであったのに対して，宋代の文化の担い手は士大夫・読書人と呼ばれる官僚・知識人たちであり，内省的で理知的な文化であった。

５～８　明代は都市の繁栄に伴い，庶民文学も栄えた。『西遊記』は呉承恩著の空想小説，『金瓶梅』は作者不明の社会小説，『水滸伝』は元の施耐庵著，明の羅貫中編の武勇小説，『三国志演義』は羅貫中著の歴史小説であり，これらは四大奇書と称される。

清代に書かれた庶民文学の代表作としては，満州人の没落貴族を描写した『紅楼夢』，科挙による社会の腐敗を批判した『儒林外史』，怪談を集めた短編小説集『聊斎志異』などがある。また，明・清代の主な戯曲としては，明代の『牡丹亭還魂記』，清代の『長生殿伝奇』『桃花扇伝奇』などがある。

11　典礼とは，中国伝統の孔子崇拝や祖先崇拝の儀式のことで，この参加の可否をめぐってカトリック諸派のあいだで論争が起こった。

12　ヨーロッパに紹介された科挙は，イギリスやフランスの高等文官試験制度の手本となった。また，朱子学に対しては，ライプニッツやヴォルテールにも高く評価されたといわれる。17～18 世紀に宣教師らによって紹介された中国文化は，19 世紀に入ると“シナ学（シノロジー）”として学問の一分野となり，研究が進められた。

W3M
早慶大世界史

Z-KAI

会員番号	

氏　名	

不許複製